

臨時休校中の生徒の皆さんへ

2020年9月19日

理事長・チャプレン

井上 良作

神は、おくびょうの霊ではなく、力と愛と思慮分別の霊をわたしたちにくださったのです。

(新約聖書 テモテへの手紙二 1章7節)

For God did not give us a spirit of cowardice, but rather a spirit of power and of love and of self-discipline.

(II Timothy 1:7)

今年の春、新型コロナ・ウイルスが猛威をふるい多くの犠牲者を出すという悲劇に見舞われたイタリアで多くの学校が休校となりました。その中でミラノにあるアレッサンドロ・ヴォルタ高校のドメニコ・スキラーチェ校長先生が“生徒たちへの手紙”をホームページに掲載しました。大きな反響を読んだ先生の手紙は日本の生徒たちへのメッセージも増補されて日本でも出版されました。3月末頃までの状況での言葉ですので現在の状況とは異なっているところもありますが、今の私たちにも訴えてくるものですので、ドメニコ・スキラーチェ著『「これから」の時代を生きる君たちへ — イタリア・ミラノの校長先生からのメッセージ』(世界文化社、2020年)から以下に所々を抜粋しながらご紹介したいと思います。

スキラーチェ校長先生は、イタリアの中学校の国語の教科書の教材に取り上げられる国民的小説である、マンゾーニの『いいなづけ』という作品を引いて、17世紀の作品当時ミラノの街がペストによって打撃を受けた様子と、今の世の中で起きていることを重ね合わせています。

「外国人やよそ者を危険だと思い込む、役所同士で激しく対立する、最初の感染者、いわゆる“ゼロ号患者”を突き止めようと躍起になる、専門家たちの意見を軽視する。さらにウイルスを広めた人たちの追跡、制御のきかない噂話やデマ、根拠のない治療、生活必需品の奪い合い、そうする間に危険にさらされていく人々の健康……、これらの様子が描かれています。」

「そして皆さんには、次のようにお伝えしたいと思います。
冷静さを保ち、群集心理に惑わされないでください。必要な予防策をとって、いつもの生活を続けてください。休校中の時間を生かして、散歩をしたり、良書を読んでください。」

「この病気が世界の端から端、そして果てまでも急速に広がったのは、時代の“産物”によるものです。感染を止める壁はありません。何世紀も前、同じように伝染病が蔓延しました。しかし、そのスピードはもう少しゆっくりでした。(中略)

“見えない敵”がいたるところにいて、いつ襲われるかわからないという恐怖にとらわれたとき、私たちは本能的に、同じ人間をむやみに脅威に感じたり、攻撃の対象と感じるものです。しかし、14世紀や17世紀に伝染病が蔓延した時代よりも、現代医学はかなり進歩しています。私たちの貴重な財産—社会組織や人間性を守るには、理性的な思考を持ってください。もし、それができなければ、本当に“ペスト”が勝利することになるでしょう。学校で皆さんに会えることを、心待ちにしています。」

「東京に住む若者たちも、ミラノの若者たちとそう変わらないのではないかと想像します。似たような夢や希望を持ち、同じような願いや恐れを持っているのではないのでしょうか。イタリアでは、高校生の年齢は14歳から19歳です。この時期は、同年代との付き合いが何よりも重要です。同世代との付き合いを通じて家族から自立して大人になっていきますし、社会性を身につけていきます。恋を知る頃でもあります。新型コロナ・ウイルスの流行は、こうした機会を一気に奪ってしまいました。家の中で、何週間も、何か月も過ごさなければならないのです。

しかし、最悪の経験からも、得られることはあるものです。アメリカの作家ピーター・キャメロンの小説のタイトル『*Someday This Pain Will Be Useful To You*』がいうように、この痛みはいつか、皆さんの財産になるでしょう。

この危機を乗り越えたとき、皆さんはきっと変わっていることでしょう。よい方向に変わることができるかもしれません。もっと自覚を持った、もっと素晴らしい人間になることができるかもしれません。本を読み、考えることで、この孤独な長い日々を無駄に失われた時間にせず、有益で素晴らしい時間にしましょう。

イタリアの生徒たちにとっても、日本の生徒たちにとっても、そうあってほしいと思います。皆さんの幸運を、心よりお祈りいたします。

— ドメニコ・スキラーチェ」

この度、感染症に罹患した生徒・教員のみなさんの一日も早い快復を心より願います。清教学園に関係するすべての方々とその家族や近親のみなさんがウイルスから守られることを祈ります。大事な中学・高校生活の一部を奪われ不自由を経験しているすべての清教生のみなさんがこの困難に負けず、より素晴らしい将来のために今の時を生かすことができるように、慈愛に富む全能の父なる神様が助けてくださるようにお祈りいたします。